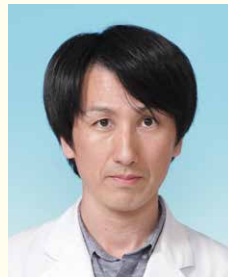


健康通信

貧血について



血液内科医長
足立 佳也

はじめに

「貧血」という言葉を一度は耳にしたことがあると思います。例えば長時間立ち続けていると目の前が真っ暗になり、くらりくらりして、ひどい場合には倒れてしまうことを「貧血」で倒れたと表現することがあります。実はこの症状は一般的に「脳貧血」と呼ばれる症状で、医学的には「起立性調節障害」と呼ばれます。起立性調節障害は自律神経失調症のひとつであり、活動時に優位に働く交感神経と、主に休息時に働く副交感神経の調節がうまくいかないために起こります。

一方で医学的に使用される「貧血」とは、血液の中のヘモグロビン濃度の減少を示します。ヘモグロビンは赤血球の中に含まれるタンパク質であり、酸素と効率よく結合することができるため、肺から取り込んだ酸素を全身の細胞へ運搬する役割を担っています。そのため「貧血」＝「ヘモグロビン濃度の低下」が起こると、酸素の運び屋であるヘモグロビンが少ないために、肺から取り込んだ酸素を体全体に効率よく運ぶことができなくなり、その代償として心臓が早く、強く働くようになります。そして、その状態が長く続くと次第に心臓への負

担が強くなり、心臓が耐えられなくなることで心不全につながります。そのため初期には「倦怠感」や「軽い運動時の動悸や息切れ」などの自覚症状があり、進行すると「顔面蒼白(顔色が白くなる)」や「安静時の動悸や息切れ」などを感じて、最終的には息苦しくなり日常生活が送れなくなります。

貧血の原因について

「貧血」の原因には赤血球の材料不足、赤血球が壊される病気、赤血球を造る機能の異常などがあげられます。赤血球の材料としては鉄、ビタミンB12、葉酸などがあります。鉄不足(鉄欠乏性貧血)は最も多い貧血の原因であり、多くの場合摂取不足ではなく、慢性出血により鉄を失うことで起こります。そのため鉄欠乏性貧血では、鉄の補充による貧血の治療だけではなく、時に胃癌・大腸癌・子宮体癌などの悪性疾患が隠れていることがあるために慢性出血の原因特定も大切です。ビタミンB12や葉酸の欠乏は摂取不足、アルコール

の多飲、胃切除後などに起こることが知られており、巨赤芽球性貧血と呼ばれるます。赤血球が壊される病気の代表としては、赤血球を壊してしまつ抗体が産生される自己免疫性溶血性貧血や、生まれつき赤血球の形に異常があるために通常の赤血球よりも壊れやすくなる球状赤血球症と呼ばれる病気があります。赤血球を造る機能の異常としては、再生不良性貧血、骨髓異形成症候群、白血病などの血液を産生する場所である骨髓の病気があげられます。

最後に

「貧血」の症状を知っていただき、おかしいなと思つたらかかりつけ医などの医療機関でご相談ください。主に赤血球が壊される病気や、赤血球を造る機能の異常による「貧血」の場合は血液内科での治療が必要になりますので、当院を含めた血液内科のある医療機関への受診をお願いします。